



京同窓会による準備委員会が設けられました。そして今年四月からは、毎月一回の定例会が開催され、十一月六日の結成総会・祝賀会へ向けた諸準備が進められました。

結成総会・祝賀会

参加者は約330人

十一月六日、東京は朝からあいにくの小雨模様でしたが、総会開会時刻の一時間ほど前には、参加者が次々と会場へ姿を見せ始めました。都内からはもとより、長野、静岡、遠くは愛知から駆け付けてくれた人も、三百三十人ほどが集まって開催された結成総会では、はじめにふるさと会結成準備委員会の真壁貞子委員長（かつら会東京支部長）と発起人代表の小畑市長があいさつし、続いて市からふるさと会結成までの経緯が説明されました。

議事では、会則案と役員選出案が提出され、いずれも満場一致で承認されました。会則には、会員は▽首都圏に居住もしくは就業する者、▽大館市に就学もしくは勤務した者、▽大館市にゆかりがあつて、この会の趣旨に賛同する者、とすることや、▽会員相互の親

睦を図るための交流会の開催、▽ふるさと大館市の産業、文化の振興・発展のための各種協力と支援、などを事業内容とすることが盛りられています。また、役員選出では、初代会長に竹村堅次氏が決まりました。議事終了後は、鳳鳴高校卒業のギターリスト・原壮介氏が、大館での思い出話を交えながら、「禁じられた遊び」「第三の男」など七曲を披露。総会を終えました。

柳家小さん門下の柳家九治氏を司会に据えた祝賀会では、竹村会長があいさつした後、参加者中最高齢の岩澤正二氏（東京鳳鳴会顧問・マツダ相談役）の音頭で乾杯。アトラクションでは、大館曲げわっぱ太鼓やロック歌手・佐藤真理子さんの歌が会場

たとえ大館を離れていても

ふるさとへのメッセージ

今回参加した皆さんに「ふるさと会」と「大館市」についてのアンケートにご協力いただき、九十五人からご回答いただきました。大館へのメッセージ、アンケート調査の結果を、結成準備委員会委員長を務められた真壁貞子氏のあいさつと一緒に紹介します。（以下敬称略）

「母のふところへ帰るたましひ」
大館ふるさと会結成準備委員会

委員長 真壁 貞子

「たましひの しづかにうつる
菊見かな」 俳人飯田蛇笏の俳句で

を盛り上げます。続いて行われた抽選会では、あきたこまちや曲げわっぱ、大館リングゴなど大館の物産が景品。名前が読み上げられるたびに歓声と嘆息が入り混じっていました。

大館の地酒を酌み交わしながら、ふるさとの思い出にひたる人、名刺を交換して近況を伝え合う人、再会を喜び合う人とさまざまでしたが、参加した皆さんはめいめいふるさとと自分との距離を思いつつ、ふるさと会結成を喜び、また、交流・情報交換の場として期待を膨らませていくようでした。

ふるさと会と大館の発展を祈り、また会うことを約束して全員が声高らかに万歳三唱し、大館ふるさと会結成総会・祝賀会は閉会しました。

すが、どこか郷愁をもちながらもやさしく、刻の移ろいが感じられます。この菊の香りを満身に浴びながらの大館ふるさと会の誕生でございます。大勢の皆様のご協力に心から感謝し、祝福いたしたいと存じます。

目下、文化創造の街大館へと、市政では「大館能代空港」などの五大プロジェクトを中心にした諸施策に取り組みながら、二十一世紀へと走り出しました。ご存じの通り二十一世紀は、地方分権の時代でもあります。たとえ離れております私たちでも、ふるさとに目を向けるという姿



▲ 最高齢・岩澤氏の音頭で、結成を祝い「乾杯！」

▼ ギタリスト・原壮介氏



▲ 元気だった？